

番外編

こうじ 工事の げんば 現場より

旧矢筈原家住宅 保存修理事業

3月2週目

こんな活動も行いました



屋根葺替工事における解体作業が行われていますが、この工事作業が火災の際に行われる「破壊消火」の疑似体験となることから、地元の消防署の協力を得て見学・訓練を実施しました。

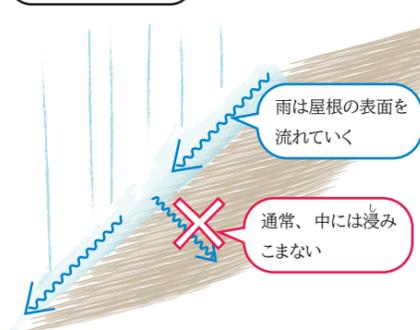
実際にあった例としては、平成2(1990)年7月29日 川崎市多摩区の生田緑地内にある川崎市立日本民家園内の旧太田家住宅において、隣接地の公園での花火遊びが原因となり茅葺屋根の大半が焼損・建物自体も半焼となる被害があります。この発災は一度消火したと見えたものが再度燃え上がったことにより被害が悪化したもので、茅葺屋根での火災発生においては破壊消火および再燃の危険性を踏まえた監視の重要性が再認識されました。このことを教訓として実施しました。

●茅葺屋根の火災について

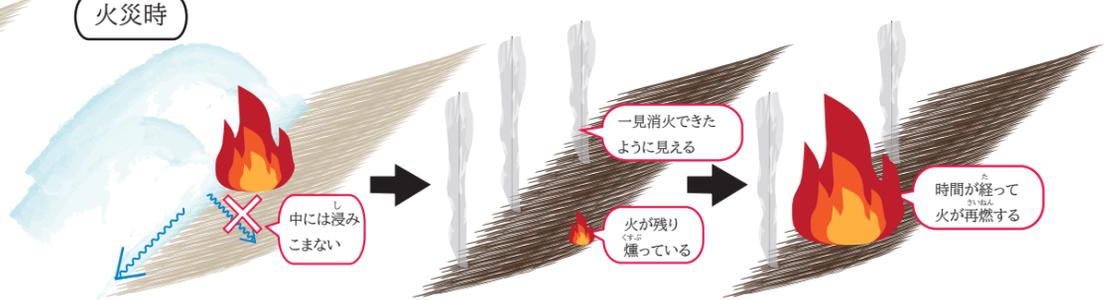
茅葺屋根火災の特質



雨が降った時



火災時



注意

火の燃え隠れから、再燃する危険性あり



- ・乾燥したススキなどの植物が束ねてある
 - ・隙間がある＝空気が十分にある
- ⇒茅葺屋根は火災の危険性大！

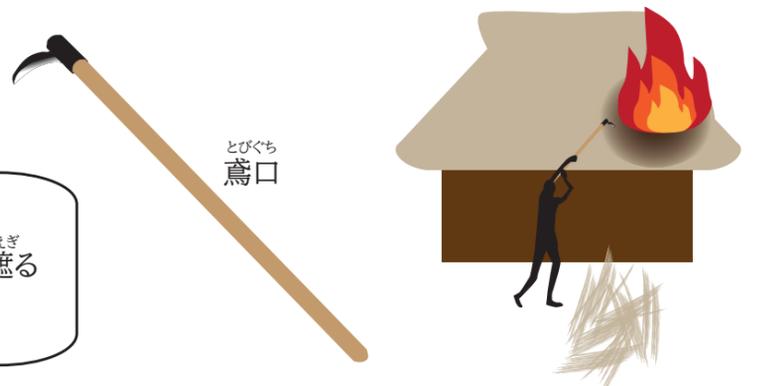
茅葺屋根火災時の特殊対応

燃焼の3条件

- ①高い温度
- ②十分な酸素
- ③燃える物がある

消火の手段

- ①温度を下げる → 水などによる消火
- ②酸素の供給を断つ → 消火剤などにより空気を遮る
- ③燃える物を取り去る → **破壊消火**



破壊消火

可燃性の建物や構造物を破壊して取り払い、燃える物をなくすことで延焼を防ぎ最終的に消火する。



茅葺屋根葺替師が解体の方法、茅葺屋根の構造について指導をし、消防署の職員が実際に触れて解体作業を体験しました。消防署職員は初めて見る素材・構造に戸惑いながらも解体を行い、万が一の発災に際してのシミュレーションも検討しました